

スプレー缶を捨てる時は、必ず中身を使い切ってから！

スプレー缶は、不適切な処理を行うと爆発や火災の危険性があり大変危険です。中身を完全に使い切り、穴を開けずに、資源物収集日に捨てましょう。処理作業は、火気のない風通しの良い屋外で行いましょう。

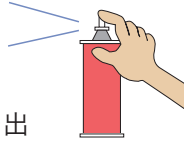
【問い合わせ】清掃センター(☎282-7289)

【正しい処理作業の仕方】

※詳細は、一般社団法人日本エアゾール協会のホームページ(<http://www.aiaj.or.jp/>)をご覧ください。

その① 缶を空にする

- ▽製品は最後まで使い切る。
- ▽使い切れない場合は、中身を出して缶を空にする。※どうしても缶を空にすることができない場合は、商品に記載されているお客様相談室や販売元に確認する。



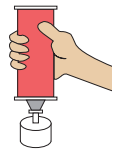
その② 缶が空になったか確認する

- ▽缶を振って音を聞いてみる。
※「シャカシャカ」などの音がする場合は中身が残っている可能性があります。



その③ ガス抜きキャップを使い、ガスを抜く

- ▽製品に書いてあるガス抜きキャップの使い方をよく読む。※キャップがない場合は、ボタンを押してガスを完全に抜く。
- ▽火気のない風通しの良い屋外で作業する。
- ▽ティッシュや新聞紙などに吹き付けることで、周囲への拡散を防止する。



その④ ごみに出す

- ▽資源物収集日に、スプレー缶収集用ネット容器に出す。

村内等で行われた活動やイベントを紹介します ず〜むあっぷ「まちの風景」



健康づくり活動に貢献 県民健康づくり功労者表彰

3月1日、県民健康づくり功労者表彰で「茨城県知事賞」を受賞した東海村健康づくり推進計画推進委員会の皆さんと、「保健福祉部長賞」を受賞した石川暢子さん(大山台)が、受賞の報告に訪れました。健康づくり推進計画推進委員会は村内のヘルスロードの作成など、さまざまな視点から健康づくりを捉え、住民と行政とが協働で行う健康づくり推進事業に大きな役割を担っていること、石川さんは50年間食生活改善推進員として地域の健康づくり活動に貢献してきたことが認められ、今回の受賞となりました。



地域の安全に貢献 ひたちなか地区防犯協会防犯功労者表彰

3月18日、平成30年度「ひたちなか地区防犯協会防犯功労者」として表彰された方々が、村長へ報告に訪れました。この表彰は、多年にわたり防犯連絡員や防犯ボランティアとして地域安全活動に尽力された方に贈られるものです。受賞者をはじめとする地域の防犯ボランティアの皆さんの、防犯パトロール活動などの地道な取り組みが、街頭犯罪や窃盗事件、非行の防止などに結び付いています。